

# Special Interview

**ストレイ・キャッツのメンバー  
& 殿堂入りの名ベースマン！**

**リー・ロッカー  
【Lee Rocker】**



© 2018 Ed Conway

編集長がウッドベース、そして、本格的にジャズに目覚めるきっかけとなったのは、何を隠そうこのリー・ロッカーだ。ストレイ・キャッツのアルバム『ビルト・フォー・スピード』を初めて聴いた時の衝撃は今でも忘れない。その後、日本で行われたストレイ・キャッツの再結成ライブにも行き、ニューヨーク生活を送っていた1995年頃には、アッパー・イーストのブルースバーに、リー・ロッカーが自身のトリオ“Lee Rocker's BIG BLUE”で登場した際に駆けつけてサインも貰っている。

今回は本誌を通じて念願のスペシャル・インタビューが実現！1月22日に待望のニューアルバム『ギャザー・ラウンド (Gather Round)』をリリースしたばかりのリー・ロッカーに直撃した。

【2021年2月取材・文：加瀬正之／取材協力：Lee Rocker's Management Team】

## 【The Stray Cats' Lee Rocker!】

グラミー賞にノミネートされたミュージシャンであり、ベーシストの殿堂入り

リー・ロッカーは、グラミー賞にもノミネートされたロカビリー・バンドで、1000万枚以上のアルバムを売り上げ、23枚のゴールド・ディスクとプラチナ・ディスクを獲得した“ザ・ストレイ・キャッツ”の創設メンバーとして、ギター&リード・ヴォーカルのブライアン・セッツァー、スタンディング・ドラム&ヴォーカルのスリム・ジム・ファントムと共に、アップライト・ベース&ヴォーカルを担当。

ストレイ・キャッツはMTVのパイオニア的存在でもあり、「ストレイ・キャット・ストラット」「セクシー&セヴンティーン」「ロック・ディス・タウン」などの世界的なヒット曲を生み出し、ロックンロールの殿堂は「ロック・ディス・タウン」をロックの最重要500曲の1つとして選んだ。

ローリング・ストーン誌の表紙から、サタデー・ナイト・ライブへの出演、USフェスティバルのヘッドライン、ザ・ローリング・ストーンズとのツアーまで、全て体験して来たリー・ロッカー。ストレイ・キャッツでの活動やローリング・ストーンズとの共演に加えて、ジョージ・ハリスン、リンゴ・スター、ウィリー・ネルソン、レオン・ラッセル、ジョン・フォガティ等とツアーやパフォーマンスも行って来た。1982年にはクラシックのクラリネット奏者である父スタンリー・ドラッカーと共にグラミー賞にノミネートされた。親子で同時ノミネートは、グラミー賞の歴史の中で過去2回しかなかったことだ。

2012年に大ヒット・ミュージカル「ミリオンダラー・カルテット」でブロードウェイに出演。2014年にはベース・プレーヤーの殿堂入りを果たした。その他、ロカビリーの殿堂、ロング・アイランド・ミュージックの殿堂入りも果たし、カリフォルニア州ラグナビーチ市からアーティスト賞も受賞するなど、音楽と芸術への貢献で数々の榮譽を受けている。リー・ロッカーのロカビリー魂は永遠だ！



♪ アメリカでもコロナの影響が続く中、音楽活動はいかがですか？

去年はほとんど作曲やレコーディングに費やしたんだ。もちろん、パンデミックでツアーはできなかったしね。だから全てのエネルギーを新しいアルバムに注いだよ。

♪ 今年 1 月 22 日にニューアルバム『ギャザー・ラウンド』をリリースしましたが、あなたのヴォーカルとベースも最高です！ このアルバムのテーマやコンセプトについて聞かせて下さい。

『ギャザー・ラウンド』はこの悲惨な年に対する反動だよ。僕は音楽で自分の気持ちを表すんだ。このレコーディングは今の僕の思想や感情を記するものだと思う。エネルギーと情熱をレコーディングに注ぎたいんだ。

♪ ストレイ・キャッツ以前の音楽・バンド遍歴について聞かせて下さい。

僕のミュージシャンとしての歴史は、幼少期にニューヨーク・フィルハーモニックの第 1 クラリネット奏者だった父親が、音楽のレッスンと練習を義務付けたことから始まったんだ。最初はチェロを練習して、その後エレクトリック・ベースとアップライト・ベースも練習したよ。ストレイ・キャッツ以外は 1980 年代にファントム、ロッカー&スリクからアルバムを 2 枚出したね。キース・リチャーズが「マイ・ミステイク」という曲でギターを弾いたんだ。あともちろん、リー・ロッカー・バンドもあるよ。

♪ ベースを弾き始めた頃、お気に入りのベーシストは誰だったのですか？

僕がアップライト・ベースで影響を受けたのはウィリー・ディクソンとビル・ブラックかな。エレクトリック・ベースはポール・マッカートニーとニック・ロウだね。

♪ メインで使っているベースの弦やセットアップについて聞かせて下さい。

弦とピックアップのチョイスはレコーディングしている曲によるね。いつも使っているセットアップは伝統的な音用にドイツ製のエフラノのガット弦とデンマーク製のプラネット・ウィング・ピースのピックアップだね。ロック用にはジェイラーのスチール弦とブラストカルトのエレクトロニクスだよ。

♪ ストレイ・キャッツの盟友ブライアントとスリム・ジムとはいつ頃出会ったのですか？

僕たち 3 人はお互い 10 歳ぐらいから知っているよ。みんな共に育って来た仲間なんだ。

♪ 日本で特別な思い出はありますか？

いつも日本のコンサートは最高だった記憶がある。日本のファンみんなに感謝しているよ。

♪ 日本の音楽や日本人アーティストをチェックすることはありますか？

もっと日本のバンドも聴いてみないとね。

♪ ストレイ・キャッツのアルバムでお気に入りのアルバムはどれですか？

それは難しい質問だね。でも、個人的には『セクシー&セヴンティーン（原題：Rant N' Rave With The Stray Cats）』と『ビルト・フォー・スピード（Built For Speed）』かな。

♪ ストレイ・キャッツでヴォーカルをとった「Drink That Bottle Down」、ファントム、ロッカー&スリック時代の「Lonely Actions」そして、ニューアルバム『ギャザー・ラウンド』に収録されている「Everybody Wants To Be A Cat」は大好きな曲ですが、この3曲に特別な想いはありますか？

この3曲は僕にとって大切なもので、僕の心境に近い作品だよ。

♪ お薦めのアーティストやバンドはいますか？

僕はジェイソン・イズベルとドライヴ・バイ・トラックーズが好きだね。

♪ 現在のロカビリーシーンをどう思いますか？

ロカビリーはジャズとかブルースと一緒に、世界中の音楽の一種だと思う。その影響力は様々だけど、いつもその存在は感じているよ。

♪ 今後、特別なプランなどありますか？

2021年は僕にとってロックする年さ！ また演奏しながら世界中を旅するのが待ち遠しいよ。9月には僕のバンドで『ギャザー・ラウンド』からのナンバーとストレイ・キャッツのお馴染みのナンバーを各地で披露する予定だよ。



♪ あなたにとってストレイ・キャッツはどんな存在ですか？

ストレイ・キャッツは僕の原点、アーティストとして僕の旅のスタート地点だね。

♪ あなたにとってアップライト・ベースとは何ですか？

アップライト・ベースは僕の一部だよ。一心同体さ。

♪ 「The Walker's」読者と日本のファンにメッセージをお願いします。

僕の音楽に興味を持って、支持してくれたり、涙を流してくれたファンには感謝しているよ。僕の新しいアルバム『ギャザー・ラウンド』をぜひ聴いてみて。全ての音や歌詞に僕の情熱と魂を捧げて作曲したからね。このアルバムは僕の40年の音楽人生の集大成なんだ。ありがとう。

【Stray Cat Lee Rocker official website】

<https://leerocker.com>

『ギャザー・ラウンド（Gather Round）』  
リー・ロッカー（Lee Rocker）



リー・ロッカーの  
待望のニューアルバム

Upright Records

Release Date:

January 22, 2021

<https://leerocker.com/gather-round>

- 【曲目】
1. Gather Round
  2. Graceland Auctions
  3. The Last Offline Lovers
  4. Everybody Wants To Be A Cat
  5. Pickin' and Grinnin'
  6. Every Time I See You
  7. A Dirty Martini
  8. When Nothing's Going Right
  9. Dog House Shuffle
  10. Ophelia

# 【Lee Rocker Discography】

リー・ロッカーがストレイ・キャッツ名義以外でリリースしたソロ&リーダー・アルバムを紹介！  
 ファントム、ロッカー&スリック時代の名盤、リー・ロッカーズ・ビッグ・ブルー時代の傑作から  
 ソロ名義でリリースしたスタジオ録音盤、ライブ盤、ベスト盤まで、リー・ロッカーの魅力満載！  
 必殺のスラップ・ベースと最高のヴォーカルは勿論、エレクトリック・ベースを弾く楽曲も必聴！



Phantom, Rocker & Slick  
Phantom, Rocker & Slick  
(1985)



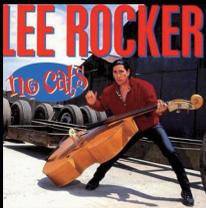
↑ Cover Girl  
Phantom, Rocker & Slick  
(1986)



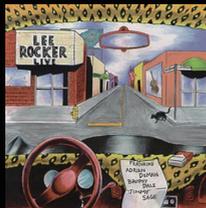
Lee Rocker's Big Blue  
Lee Rocker's Big Blue  
(1994)



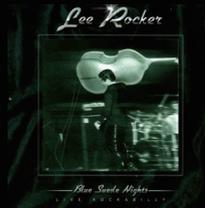
Atomic Boogie Hour  
Lee Rocker's Big Blue  
(1995)



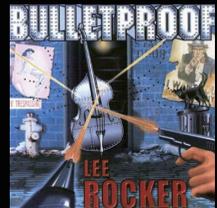
No Cats  
Lee Rocker  
(1998)



Lee Rocker Live  
Lee Rocker  
(1999)



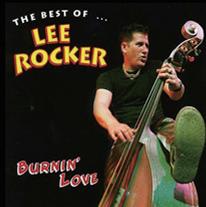
Blue Suede Nights  
Lee Rocker  
(2001)



Bulletproof  
Lee Rocker  
(2003)



Upright at Mickin'  
Lee Rocker  
(2003)



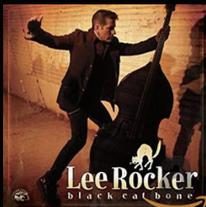
Burnin' Love: The Best of  
Lee Rocker  
(2004)



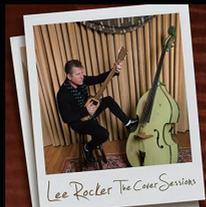
The Curse of Rockabilly  
Lee Rocker  
(2005)



Racin' the Devil  
Lee Rocker  
(2006)



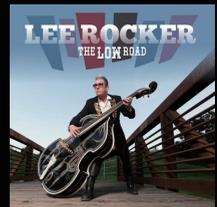
Black Cat Bone  
Lee Rocker  
(2007)



The Cover Sessions  
Lee Rocker  
(2011)



Night Train to Memphis  
Lee Rocker  
(2012)



The Low Road  
Lee Rocker  
(2019)